



第23回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

**周りを動かしたのは、
現状を変えろと決めた
強い意志でした**

**2022年度障がい者の働く場
パワーアップフォーラム**

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
高工賃へのあくなき挑戦
現地からお届けするオンラインフォーラム 宮城会場

2022年度 ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティア

リレーコラム
夢をつないで
第25回

社会福祉法人維雅幸育会
理事長 村田 輝夫



施設外就労の 取り組みは 意義あるもの

Profile

1956年 愛媛県大洲市生まれ。高等専門学校(工業化学科)卒業後、1976年 株式会社ミルボン入社、生産本部にて製造部門一筋に携わる。2008年取締役生産本部長に就任。2022年3月退任。株式会社ミルボン在任中は、障害者雇用の拡大と共に、施設外就労「M.I.Eモデル」の受け入れ企業として、障がいのある人の多様な就労の実現に尽力する。2014年 社会福祉法人維雅幸育会理事に就任、2021年 同副理事長に就任し、2022年6月から現職。

私は一般企業の製造部門一筋で定年まで働いてきました。その後、縁あって福祉法人の理事長に就任しましたが、福祉の分野では門外漢と認識しています。

ただ、企業側で、障がいのある人たちの施設外就労を長年受け入れた経験から、素人なりの知見がありますので、このコラムを通してより多くのみなさんに施設外就労に関心を持っていただければ幸いです。

私は、障害者自立支援法施行頃に、福祉法人側から障害者雇用の相談を受けました。当初は特例子会社設立の依頼でしたが、「本来あるべき企業姿勢として、障がいの有無に関係なく、社員にはきちんと利益を生む仕事をしてもらいたい。子会社でなく、本業の中でそれぞれができる役割を全うしてほしい」という考えから、まずは、福祉法人とのパートナーシップに基づく施設外就労(業務請負)を受け入れる形態でその一歩を踏み出しました。

その後、十数年間に渡り、障がいのある人たちに社員と同じエリアで働いていただき、その中から直接雇用につながった人が10名を超えています。

施設外就労は、生産人口減少により人手不足が厳しい企業にとって、有効かつ安定的な戦力とみなすことが可能であり、さらに、能力・適性を持つ障がいの者の直接雇用への期待も高まります。また、福祉側としても、設備投資費用等がほぼ発生しないため、小さな団体であっても取り組みやすく、さらに売上を伸ばし利用者の工賃アップにつながるメリットがあります。WINWINの関係は築けると思います。

この十数年、福祉施策は障がいのある人たちが「働く」ということに重点をおいて展開してきましたが、ダイバーシティとインクルージョンの時代を迎え、今後は、働きたいと願う人をどう訓練するのではなく、障がいのある人の働く場所と社会環境をどう作るのが問われる新しいストーリーを迎えたと思います。地域全体のインクルーシブな働き方を模索する中、今ここで、施設外就労に取り組むことは意義あるものだと考えます。

※障がいの表記について：著者の表記を尊重しています

CONTENTS

表紙写真

第23回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者の中山みち代さん(左)、山口由紀子さん(右)のお二人。日本工業倶楽部の大会堂にて

03 第23回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式
周りを動かしたのは、
現状を変えんと決めた強い意志でした

12 2022年度 ヤマトグループボランティアプロジェクト
地域と繋がるボランティア 農業編、地域福祉活動編

09 2022年度障がい者の働く場
パワーアップフォーラム
「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
高工賃へのあくなき挑戦
現地からお届けするオンラインフォーラム 宮城会場

16 利用者さんの給料増額に向かって
夢へのかけ橋 実践塾

18 自然栽培パーティ
感謝祭2022 全国フォーラム in 沖縄



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

第23回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

周りを動かしたのは、
現状を変えると決めた強い意志でした

障害者週間の12月7日、第23回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式を日本工業倶楽部(東京都)で開催しました。今回の受賞者は、社会福祉法人パレット・ミル常務理事の中山みち代さんと、社会福祉法人ハイジ福祉会理事長の山口由紀子さんです。



前列左から受賞された山口さんご令息と山口由紀子さん、中山みち代さんとご夫君。後列左より森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、山内雅喜ヤマト福祉財団理事長、辺見 聡厚生労働省 障害保健福祉部長、長尾 裕ヤマトホールディングス(株)代表取締役社長



見逃された方は、
こちらから視聴できます。



「こんな素晴らしい賞をいただけて」と喜びを語る中山みち代さん(右)と山口由紀子さん(左)



「中山さんと一緒に、これから滋賀県の障がい者福祉を盛り上げていきたい」と推薦者の(NPO)滋賀県社会就労事業振興センター理事長 城 貴志さん



「お二人の受賞は、全国各地で頑張る障がい者福祉関係者の良い励みになるでしょう」と日本社会事業大学専門職大学院客員教授の蒲原基道選考委員



「この受賞で小倉さんから教えていただいたことを少しでも形にでき、恩返しができたのかなと、うれしく思います」と中山みち代さん

優しい笑顔に隠された 決してブレない強い信念

障がいのある方の仕事づくりや雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給などに功績のあった2名の方に、毎年、厳正な審査のもと、ヤマト福祉財団小倉昌男賞を贈呈しています。

主催者挨拶で山内理事長は「先月、お二人の施設を訪問し、明るく楽しそうに働く利用者さんたちの姿を見て、まさに本賞にふさわしい方たちにお贈りできたとうれしく感じています。なんとしてもやり遂げるのだと情熱を傾け、数々の苦難を乗り越えてきたお姿は、障がい者福祉に関わる方たちに英知と勇気を与えてくれるはずですよ」と受賞者を讃えました。

「中山さんは、どんな障がいのある方にも高い給料を」と多様な仕事を創出されてきた方です。地元企業を訪ね歩き七カ所もの施設外就労先を築かれた行動力も高く評価しました」と選考委員の日本社会事業大学専門職大学院 蒲原基道客員教授は話します。

「山口さんは、社会からなかなか理解を得られなかった精神障がいのある方たちの就労支援」に尽力されてきました。農福連携の先駆者であり、長い年月をかけて交通機関から精神障がい者の交通運賃割引を実現された功績も大きい」と選考の理由を伝えました。

障がいのある方に最低賃金を！ パワフルなみんなのお母さん

「中山さんは、地域のみなさんにお母さん！と呼ばれ慕われている方です。その温かな人柄のなかには、だれにも負けない芯の強さがあります」と推薦者の(NPO)滋賀県社会就労事業振興センター理事長の城 貴志さん。

「初めてお会いしたのは、中山さんが小規模

作業所としてパレット・ミルを立ち上げられた20数年前。アポも取っていなかったのに、中山さんは笑顔で歓迎してくれました。これからフォークリフトで使う木製パレットのリユースを始めるけど、だれもフォークリフトの免許を持つていないので自分で取ろうと特訓中。やるからには、最低賃金を支払えるだけの事業所にしていきます」と2時間近くも熱心に語ってくれたのです。私はたちまち中山さんのファンになりました。

中山さんは、どんな壁にぶつかってもくじけることはありません。取引先の都合でパレットリユースの仕事が減少すると、木工遊具の前処理、焼き菓子の製造、さらに発泡スチロール減容などの新たな仕事も開拓。施設外就労先も次々と拡大していきました。

「人を大切にする。こと。利用者さんの生活を守るために絶対に給料を下げないこと。なにがあってもこの二つを貫き通す中山さんの姿を見ると、みんなつい応援したくなってしまいます」。

精神障がい者に寄り添い 農福連携で希望の花を

「山口さんも周りが応援したくなる優しく魅力的な方です」と推薦者の(社福)八女市社会福祉協議会 総務課長の高山真一さん。

(社福)ハイジ福祉会を設立される前、山口さんは八女市社会福祉協議会が所有する会館の2階を借りて活動していました。

「当時は精神に障がいのある方に対する社会の目はまだ冷たく、国の支援も身体や知的障がい者が通う事業所と補助金にも大きな差がありました。それでもいつも笑顔で頑張る山口さんに周りの者は勇気をもらい、どんなに厳しいときも職場の雰囲気は明るく和やかです。違う



「応援いただいたすべての方と一緒にいただいた賞です。これからも精神障がいのある一人ひとりの利用者さんと向き合い続けます」と山口由紀子さん



「精神障がいのために地道に支援・活動されてきた努力が認められて本当に良かった」と推薦者の(社福)八女市社会福祉協議会 総務課長の高山真一さん



「私たちも障がいのある方たちの働く場、活躍できる場を広げるために、尽力していきます」と辺見 聡厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部長



両施設の紹介動画には、自信にあふれた利用者さんの姿が映し出されました。「木材を削る

**利用者さんの喜ぶ姿に
励まされ力をもらう**

「いつも前向きな山口さんの姿は、利用者さんとご家族に希望を与え続けてくれています」。

給料は増額していきました。

フロアで働く私たちまで元気をいただけていました」。

そんな山口さんの姿に心を動かされた地元企業が、仕事を依頼してくれるようになり、事業所は次第に活気づきます。さらにJ Aを退職し施設を手伝い始めた現施設長である息子さんが、人手不足に悩む地元の花弁生産農家と障がいのある方を Win Win でつなぐフラワーパッケージセンターを提案。一気に売上・給料は増額していきました。



「雇用するだけでなく、働く生きがいを見いだせる仕事を創出する術をお二人から学び実現していきたい」とヤマトホールディングス(株) 長尾 裕代表取締役社長



「一生懸命働いた給料から心のこもったカンパを出してくれている組合員に、誇りを持って報告できる受賞者です」とヤマトグループ企業労働組合連合会 森下明利会長

まで支えてくれた方々への感謝の涙が浮かんでいました。

「こんなに素晴らしい賞をいただけて…。これからも利用者さんと地域のみなさんと一緒に歩み続けます」。そう話すお二人の目には、いま

賞者からフィナーレとなる喜びのスピーチへ。

会場は温かい拍手に包まれました。

山内理事長がお二人に正賞の雨宮 淳氏作のブロンズ像「愛」と賞状、副賞賞金100万円の目録を、ご夫君とご令息に花束を贈呈すると、3名の来賓より祝辞をいただいたあと、両受賞者からフィナーレとなる喜びのスピーチへ。

「は大変だけど、削れていない箇所を見つけ上げていくのが楽しい」とパレット・ミルの利用者さん。ハイジ福祉会の利用者さんは、「ガーベラの栽培や収穫も、シイタケのパッケージ作業もノルマを達成していく充実感がある」と話します。

高い給料の仕事を自分に適した いろんな働き方で選べるように

社会福祉法人パレット・ミル 常務理事 中山みち代さん

11月11日、滋賀県栗東市の施設外就労先と、そこから離れた山中にあるパレット・ミルの事業所を訪ねました。

**偶然の出会いが次々と
神様が後押ししている？**

（社福）パレット・ミルには五つの事業所があり、2021年度でA型の月額平均給料は約15万5000円、B型でも7万8000円を超えるところがあります。

「いろんな方との出会いに恵まれ、ここまでやってきました」と中山さん。以前、授産施設で働いていたときの利用者さんの給料は数千円。これでは自立した生活なんてできない、最賃を払える事業所が必要だと中山さんは考えていました。すると知り合いのワークアッドバイザーから「パレットの仕事があるが、自分で事業所を開いてみては？」と情報をもたらします。

「土地もお金もない一介のおばさんですから、物件探しも大変です。ダメもとで市役所を訪ねると、使われていない木工所があった。早速、

管理する森林組合に問い合わせたら「おいでおいで！」と快諾。ただで、胸をホッと撫で下ろしました。

しかし、重い木製パレットの積み下ろしには、何百万円もするフォークリフトが必要です。

「銀行への福祉基金の申請は無事に通りましたが、まだお金が足りません。どうしようと思いを抱えていたら、なんと寄付してくれる方が現れたんです。なんだか神様に、作れ！と言われていた感じがしました」。

**施設内外のすべてで
やりがいある仕事と最賃を**

「パレット・ミルは、パレットの製造工場の意味ですが、いろいろな色を持ち寄り夢を描いていける場所」という願いも込めています。でも売上はわずかしがなく、たった100円の給料でスタートしました。中山さんは、中小企業家同友会や

商工会で名刺を配り、地元企業とのつながりを作っていました。そして木工玩具の加工、蹄鉄のお守りの製作、クッキーやラスクのOEM受託、発泡スチロールの減容（発泡スチロールを破碎・溶解・冷却して再生した原料にする）など、多岐に仕事を広げ、給料増額に努めました。

「施設外就労では、施設内で働くより高い給料を交渉します。それがモチベーションになり、ステップアップする力になっていくんです。一般の方たちと一緒に仕事をし頼りにされると、それが働く喜びにも。施設内だとダラダラしていた人が、突然シャキッと変わったりますんです。

もちろん施設内で働く人も全員の頑張りを均等に評価します。毎日、職員が提出してくれる個人の日報に目を通し、この人はここまでできるようになったと確認し、それを評価して毎月給料を検討。一度昇給したら下がることはありませんよ。」

そう話す中山さんの笑顔は、お母さんのあたたかさに満ちていました。



パレット・ミルの仕事の柱は発泡スチロールの減容です。木製パレットの仕事は減りましたが、そこで培った技術を木製玩具の前処理の仕事に活かしています



このままで良いはずがない 「どげんかせんといかん！」

社会福祉法人ハイジ福祉会 理事長 山口由紀子さん

11月15日、利用者さんの働く姿を拝見するため、福岡県八女市旧道沿いにある八女作業所、田園地帯の中にあるフラワーパッケージセンターを訪問しました。

**精神に障がいがある方には
居場所と仕事が必要**

「私が精神障がい者福祉の道に踏み込んだのは、兄がいたからです。東京の会社勤めに出ていた兄の様子がおかしいと連絡を受け、連れ帰ってきた母の顔は憔悴し切っていました。あんなに優しくあった兄はすっかり変わってしまった、家族に暴言、暴力を振るっては入退院を繰り返す日々が13年間も続きました。そんな兄が地元の作業所に通うようになると、次第に落ち着いてきたんです。精神障がいのある兄にとって、外に居場所・仕事があることがとても大切なんだと痛感しました」と山口理事長は振り返ります。

2001年、お兄さんが通う作業所の所長になってほしいと山口さんに話が来ます。当時は精神障がいのある方への国の支援も、地

元の理解もまだ道半ばの厳しい状況でした。

「仕事はタオル折りぐらいしかありませんでした。しかも一つ仕上げて1円50銭。これでもともな給料を支払えるはずがない。」このままではダメだ。どげんかせんといかん！」と心に決めたのです。この言葉は、東国原前知事より私の方が早かったかなと山口理事長は笑います。

**人手不足で悩む企業・農家と
互いにメリットある関係へ**

「八女市にはお茶屋さんなどの会社がたくさんあるので、ぜひ仕事を！とお願ひしてまわると、株式会社武久さんが施設外就労の話にくださったのです。ところが他のパートさんから、ジャマになるだけとクレームが。そこで、スライスしたシイタケの計量と袋詰め作業を事業所に持ち帰り、職員がケアしながら

ら働けるようにしたらどうでしょうと交渉していったのです。」

このような仕事ぶりを認められ、さまざまな受託作業を受注。事業は軌道に乗りはじめ、2007年にハイジ福祉会を設立します。でも満足いく給料・仕事量にはほど遠い状況でした。

それを変えるきっかけが、2014年に誕生した八女パッケージセンターです。ここは、地元農家が生産したガーベラなどの花卉を、精神障がいのある利用者さんが選果・梱包する職場です。元JAの職員だった山口さんの次男・山口隆充施設長がJAに提案し実現しました。

「農家さんは慢性的な人手不足に悩んでいます。特に花卉収穫後の選果選別作業は、夜中までかかってしまう。でも同じ作業の繰り返しなら、精神に障がいのある

方にマッチングするはず。ガーベラは、通年・短期間で栽培収穫できるので仕事が途切れず売上が安定する。農家は時間に余裕ができ、農地拡大にも力を入れることができる。互いにWinWinになれるですよ、と話したのです」と山口施設長は話します。

まさに農福連携の先駆けとなるこの事業は、施設の売上の大きな柱へと成長。2021年の月額平均給料はA型で約8万3000円、B型で3万円を超えるまでになりました。

「いまの私の仕事は、利用者さん一人ひとりに寄り添い続けること。急ぐことはない、そのまま続けられればいい。こんなふうに良くなってる！」と思うときが必ずくるから楽しみに頑張らしましょう、といつも声をかけているんですよ」と山口理事長は、話しています。



農家さんから集めたガーベラなどを選果・梱包するフラワーパッケージセンター。キャップがけは機械や手作業で



自分が納得できる やり切った感の日本一に！

「ありがとう」に込めた
ヤマトさんへの感謝の気持ち
ヤマト福祉財団 小倉昌男賞
は、私にとって特別な賞です。
開所当時、どう頑張っても
最低賃金どころかわずかな給
料しか払えず、悩んでいた私
を鼓舞してくれたのが、当時
のパワーアップセミナーでの
小倉さんの教えでした。

「あなたは1万円で生活で
きますか？」小倉さんは、働
いて高い給料を得る大切さと
ともに、お金を稼ぐことが下
手な私たちに企業経営のノウ
ハウを厳しく丁寧に指導して
くれました。それ以来、「よし！
地元企業に何度断られても
利用者さんのために営業し
続けよう。私は納得するま
とう」と伝えていきます。



社会福祉法人パレット・ミル
常務理事 中山みち代さん

1989年 (社福)湘南学園の養護施設・1993年 同園の知的通所授産施設に勤務。1996年 自立就労センター「パレット・ミル」設立。2002年 社会福祉法人に認可「(社福)パレット・ミル」へ。2005年 グループホーム「パレット・ミルの家」開設。2006年 事業所型作業所「パワフル」開設、同年 自立就労センターパレット・ミルを就労移行支援事業に移行。2009年 多機能型事業所パワフルと就労継続支援B型に組織変更。2014年 特定相談支援事業所「コネクト」開設。2019年 就労支援事業所「カラフル」開設。

私がここにいるのは 精神障がい者の兄のおかげ



社会福祉法人ハイジ福祉会
理事長 山口由紀子さん

1998年 八女地区精神障害者家族会のぞみ会役員に就任。2001年 小規模授産施設「八女共同作業所」所長に就任。2003年 福岡県精神障害者家族会連合会理事に就任。2007年 「(社福)ハイジ福祉会」を設立し理事長に。同年 就労継続支援B型事業所「八女作業所」設立。2014年 就労継続支援A型事業所「フラワーパッケージセンター」設立。2016年 西日本鉄道(株)の精神障がい者への交通運賃割引適応。2018年 厚生労働大臣賞受賞。2020年 共同生活援助「ぐるーぷほーむハイジ番館」設立。

農家さんと一緒に八女市を
ガーベラの一大生産地へ

私がこんな晴れやかな場所に
立っていられるのは、いま
は天国にいる兄のおかげで
す。昔は、精神障がい者であ
る兄を恨んだこともありまし
た。でも、とても大きな荷物
を背負って生きているんだと
理解できたとき、私のなかで
なにかが変わったのです。

以来、知的障がいや身体障
がいの方にはいろんなサービ
スがあるのに、精神障がい者
にはなぜないのかと、多くの
ご家族と一緒に訴え続けてき
ました。交通機関の割引では、
西鉄様よりアンケートを採っ
てほしいと言われ、全国から
約62万人の声を集めたことも
あります。それを実現できた
のは、どげんかせんといか
ん！と同じ決意を抱いた仲間
が、日本中にたくさんいてく
れたからです。

約62万人の声を集めたことも

なっています。

なっています。

11月25日
宮城会場

障がいの重い人にも高い工賃を実現する支援方法を学ぼう！

※現地会場：宮城県柴田郡（社福）はらから福祉会

昨年の11月25日、本年度2回目となる「現地からお届けするオンラインのパワーアップフォーラム」を、宮城県柴田郡にある（社福）はらから福祉会で開催しました。2021年度、はらから福祉会全体の平均月額給料は5万6367円、なかには8万3340円を達成した事業所もあります。



山内理事長



(NPO)日本障害者協議会 藤井克徳代表

2022年度

障がいの者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」

高工賃への
あくなき挑戦

労働手段をどう改善するかが
就労率と給料を上げるカギ

「はらから福祉会の武田理事長は、障がいの重い軽いに関係なく、生きがいを
持つて働き高い給料を得ること」を目標に
されています。決してあきらめない
姿勢は、同じ目的に向かう仲間として元
気をもらえるはず」と山内理事長が
開幕のメッセージを送りました。

ホスト講演では、障がいの重い人にも
高い給料を実現するポインント「チーム
化・機械化・意識化」を武田さんが解説。
はらから福祉会を紹介する動画には、視
聴者の参考となる取り組みが次々と映
し出されました。

ゲストと一緒に「はらから福祉会を見
学した(NPO)日本障害者協議会の藤
井克徳代表は「障がいのある方の就労率
を上げるには、治具や機械化など労働手
段の改善が大切です。障がいは、本人を
取り巻く環境でより重くも軽くも変わ
っていくことが、はらから福祉会の取り
組みで実感できますね」と講演しました。
ゲストで(社福)オリーブの樹の加藤
裕二さん、(社福)かしのみ福祉会の小俣
弘美さんは、現状報告に加え、視聴者代
表としてホスト施設を見学した驚きと
感動も伝えていきます。

シンポジウムでは「高工賃を目指し、
障がいの重い人への支援などこれからの
取り組み」を語り合うことに。シンポ
ジストたちは、キーワードを掲げてどう
実践するかを発信しました。



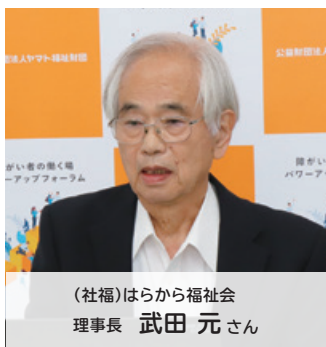
えいむ亘理



くりえいと柴田



みずきの里 丸森



(社福)はらから福祉会
理事長 武田 元 さん

(社福)はらから福祉会

●設立：1983年4月 ●事業
所数：9カ所 ●うちB型事業
所の平均月額給料：5万6,367
円(2021年度)※最高額はえい
む亘理の8万3,340円(牛タン
加工) ●事業内容：豆腐・豆乳・
油揚げなど大豆加工食品製造、
レトルト食品製造、菓子製造、パ
ン製造、食肉加工業務(牛タン・
豚肉)、ピザと牛タンのお店とレス
トランの運営

全員参加の「チーム化」で 質の高い商品の量産を実現

どんなに障がいが高くても働いて暮らせるだけの賃金を。40年前に事業所を開所したときから、はらから福祉会は、重い障がいのある利用者さんにも全員に7万円の給料支給を目標に取り組み続けています。そこで武田 元理事長が掲げたのが「チーム化・機械化・意識化」の三つです。

「高賃金を払うには、高品質な商品を生産し売上を伸ばすことが必要です。技術の高い難しい仕事は、障がいの軽い人が担当すれば良いのですが、それだけでは量産化できません。そこで高度な仕事を難易度の高・中・低と分解。単純作業が適している障がい重い人も一緒に参加できるようにしました。全利用者さんが力を合わせ、付加価値の高い商品を量産化していく。これが私たちの考えるチーム化の狙いで

ホスト講演

テーマ「より障害が重い人を働き手に」ーチーム化、機械化、意識化を通してー

す」と武田さん。

「機械化」で、利用者さんの やりがいも広げていく

難易度の高い仕事をどうやって単純化していくか。それを進める手段の一つが機械化です。機械導入は、効率・生産性アップのためと捉えられがちですが、はらから福祉会は障がいの重い人もやりがいのある仕事に参加できる手段として活用します。紹介動画で、えいむ亘理の職員は「高品質な牛タンに欠かせない目入れ作業は、限られた人しかできない職人技の仕事でした。それを機械化で単純化し、量産も可能に変えています。利用者さんの働く時間内で、より価値のある仕事に従事できるようにするのも機械化の目的です」と解説しています。

「意識化」で自閉症の方の マイペースをユアペースへ

はらから福祉会が40年かけても

なかなか良い結果を出せなかった課題。それはこだわりの強い自閉症の方たちの仕事への参加です。

「どうしたら自分の世界に閉じこもらず、みんなと仕事ができるようになるかを研究する専門の支援チームを作りました。研修会や外部の講座などにも参加して勉強を重ね、始めたのが『意識化』です」。

はらから福祉会では、毎朝こだわりの強い利用者さんたちが手をつないで一緒に通所してきます。

「他にも歩行訓練やリズム運動、さらにトイレや着替えなど、できるだけ集団で行動します。その結果、集団への慣れと適応力を育むことができ、こだわりの強いマイペースの人が、周りに合わせるユアペースに変わってきました」。

さらに「集団で体を動かす↓働く」を交互に取り入れることで、1日の流れのなかに仕事をすることをパターン化。問題行動も随分減ってきたと言います。

「障がいの重い利用者さんでも『やりがいのある仕事をしたい、人の役に立ちたい』と願っています。その私たちが多様な作業と十分な仕事量を用意することで、次はあの仕事をやりたい」と目標を持つことができるのです。幸せになる権利に例外はありません。福祉に携わる者は、それを決して忘れてはいけません」。



ゲスト報告1

テーマ：高工賃支給の秘訣

オリーブの樹が目指すのは、障がいのある方が地域で暮らせるだけの給料です。そこで利益率の高いクッキーやアイスなどを自分たちで製造。障がいのある方の働く姿を直接見てもらい、地域の理解を深めたいと対面販売にしました。でも思うように給料を増額できなかった。そんなとき、小倉昌男さんの「いろいろ悩むより払いたい賃金を払ってしまえ」との言葉に衝撃を受けます。そこでA型事業所にして最低賃金を払ってしまうことに。これで職員は必死になり、市場を見て商品を開発し販路開拓の取り組み方も変わっていきました。だから私のキーワードは「払ってしまう」。これが一番の秘訣です。



(社福)オリーブの樹
理事長 加藤 裕二さん
(千葉県千葉市)

「ホスト施設をご覧になっていかがですか。コーディネータの藤井さんの問いに(社福)オリーブの樹の加藤さんは福祉施設のレベルを超えて食品会社の工場のようにでした。同じ経営者として、ここまで投資する勇気が凄い」と驚いています。(社福)かしのみ福祉会の小俣さんは、夢へのかけ橋実践塾・武田塾の元塾生です。「ここを訪れる度に、新

設備投資も支援の方法も迷ったときこそ一歩前へ！

しい機械が入り、重度の働く方の人数が増えていく姿を見せつけられて。塾長はつねに先を行き、とても追いつけません」とため息を漏らしました。

お二人の感想に武田さんは「支援方法も機械の導入も、どうすれば障がいの重い人がもっと活躍できるかを考えた職員の提案です。購入費をうまく補填できるのかと、悩みはしますが、そこはえいやーでやるしかない。迷ったら一歩前にです」と静かに微笑みます。

ゲスト報告2

テーマ：私たちが歩んできた高工賃への取り組み

私がかしのみ福祉会で働き始めたころの利用者さんの月額平均給料は約3,000円。障がいがあるとこんなお金で生活しなければならないの!?と憤りを感じました。なんとか変えたいと考えた私は、夢へのかけ橋実践塾・武田塾に入塾。給料5万円と明確な目標を決めたら「とにかくやるんだ!」と、武田さんの出す課題に一生懸命に取り組むことで、営業力と販売力が自然に身についてきました。いまではドライブルーツ、飲めるゼリーなどのヒット商品を三つの事業所で製造販売し、最高で8万円を支払っています。私が掲げるキーワード「覚悟」は、まさにそんな実体験から得た答えなのです。



(社福)かしのみ福祉会
理事長 小俣 弘美さん
(山梨県甲府市)

「今後の私の役割は、障がいの重い方が働く環境と支援づくり」と決意を述べる小俣さん。加藤さんの課題は「障がい者手帳では見えない多様な働きづらさを抱える人たちの支援」です。武田さんは、高齢になつた利用者さんが自信を持って暮らせるようにすることを目指しています。最後に藤井さんは視聴者に向け「障がいの重い方ではなく、ニーズの多い方」と捉え、より良い方法を考えていきましょう」と呼びかけました。

シンポジウム

テーマ「さらなる高工賃を目指し、障がいの重い人への支援などこれからの取り組みについて」

2022年度

地域と繋がる ボランティア

ヤマトグループボランティアプロジェクト

財団ではヤマト運輸労働組合と連携し、ヤマトグループ社員がそれぞれの地域の障がい者施設と繋がり、交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。2年目となる今年は、農業編として自然栽培パーティに参加する愛媛県、石川県の2カ所を実施。地域の福祉活動に貢献するへヤマト繋がるプロジェクトは、昨年に引き続き、ヤマト運輸労働青年部のみなさんと横浜の障がい者施設の利用者さんに参加していただきました。

雨の6月に植えた苗が、大っきな甘いさつまいもに

エコステーションはるかす(愛媛県今治市)2022年10月29日



愛媛県今治市にあるエコステーションはるかすの利用者さんと一緒に、ヤマト運輸労働組合愛媛支部のみなさんが6月に植えたサツマイモの収穫に参加しました。

植え付けは、6月の梅雨の時期で雨の中の作業でしたが、収穫のこの日は雲一つない秋晴れ。労働組合からご家族を含めて18名、はるかすの利用者さんと職員27名で、待ちに待った芋掘りです。

「ヤマトのCMは「未来より先に動け」というキャッチコピーがありますが、農業はまさに未来を見据えて動くもの。6月に植えた苗が、こんなにもみずみずしい緑の葉っぱが生い茂り、4カ月でこれだけ成長しているのに、感動しています」と、ヤマト運輸労働組合愛媛支部河野支部執行

農業編

ヤマトグループ
ボランティアプロジェクト

足の笑顔いっぱい!



利用者さんと組合員さんとの協同作業で、パワー全開!

ハーブ農園バザン(石川県河北郡)2022年11月12日

ハーブ農園バザンがあるのは、河北干潟干拓地のまん中あたり。遠くに立山、白山を望む、広大な農地に自然栽培でハーブをはじめさまざまな作物を育てています。

今回は、種から蒔いた紅大豆の収穫で、約30aの畑に植えられた紅大豆を、利用者さんと金沢支部の組合員約20名でチームを作り、協同作業で作業を進めていきました。青くすんだ空の下、風もなく11月とはいえ半袖で作業している人も。通常は、利用者さんと職員で収穫したら2〜3週間はかかるところを、なんと半日のうちに収穫を完了。収穫だけではなく、その後の片付けまで終了しました。

バザンの澤部代表は、「ヤマトパワーにビックリ!! また来年も是非手伝ってほしい」と、佐野委員長をは

委員長。

はるかす農業担当の石河さんは、「植えたばかりの苗は1週間、水をたっぷりやり続けなければなりません。ここには水やりの設備がないので、利用者さんと一緒にじょうろで水やりをしました。7、8月は雨が少なくて、またじょうろで水やり。そして取っても取っても生えてくる雑

草との戦いでした」と収穫できるまでのご苦労を話してくれました。

1500株ずつ植えた安納芋と紅はるかの収穫は約400kg。収穫したサツマイモを早速石焼き芋にしたいいただきました。「おいしい！甘い！」収穫の疲れも忘れて、笑顔でいっぱい。お天気にも恵まれ、利用者さんたちと交流を図った1日でした。



(NPO) 続ける力 エコステーションはるかす

愛媛県今治市桜井2-5-58 TEL0898-35-4680

農業を始めて3年目。自然栽培でお米や野菜づくりを行っていましたが、1.5反の畑でさつまいもを作るのは初めての取り組みです。今回のさつまいもの収穫は、すべてヤマト運輸労働組合愛媛支部に納品され、みなさんで分けていただきました。

さつまいもと紅大豆、たくさんの収穫に満

じめ、組合員のみなさんに声をかけています。

収穫した紅大豆は、ペザンと連携をしている障がい者施設で味噌に加工されます。

金沢支部の佐野支部執行委員長は、「収穫をはじめの前は、正直、自分たちの仕事のほうが大変だと思っていましたが、大間違いだった。みなさんが大事な食を支えてくださっている事



を実感しました。それを私たちが日々運んでいます。今回、利用者の方々とチームを組んで一緒に作業をしてコミュニケーションがとれて、楽しい1日を過ごすことができました。また機会がありましたら、お手伝いをさせていただけます」と挨拶。このボランティアをきっかけに、ペザンとヤマト運輸労働組合金沢支部の新たな交流が始まりそうです。

ハーブ農園ペザン

石川県河北郡津幡町字湖東197
TEL076-289-6287

河北千潟の広大な農地で、20年以上農業や肥料を一切使わずハーブを中心に栽培に取り組んでいます。ハーブはとれたての香りを保つためにフリーズドライ製法で加工・販売。併設するショップでオリジナルハーブティのワークショップなども開催しています。

科学で遊ぼう！

中区地域訓練会チューリップ
(11/26 会場：本牧和田地域ケアプラザ)

pHによって紫キャベツの汁の色が変化する実験と、ダイラタンシ―現象を利用した片栗粉スライムのパフオーマンスを、青年部の実況を交えながら披露！ 溶液の色が鮮やかに変化する様子や片栗粉スライムの不思議な感触を子どもたちは楽しみました。

その後は溶液で紋様づくりをし、それぞれ発表。組合員お手製の賞状などが、参加者に贈られました。実験は、子どもたちの新たな興味を引き出すきっかけとなったようです。

みんなであそBoccia

港北区障害児者サークルラビッツ
(11/13 会場：障害者スポーツ文化センター横浜ラポール)

まずは会場もオンラインも一緒になってラジオ体操。4チームに分かれてジェスチャーゲームでアイスブレイクしたら、いよいよボッチャ対抗戦の始まりです。

競技中、青年部は画面越しに声援を送ったりハイタッチしたりして応援する一方、お題に沿って即興のお絵かきにも挑戦。子どもたちの票を集めると、チームにポイントとして加算される仕組みで、会場とネットが一体となつて、大いに盛り上がりました。

アートでつながろう！

都筑区子育て支援センター Popola、カブカブ川和
(11/19 会場：カブカブ喫茶、アトリエWA！)

巨大アートオブジェの制作に、2会場＋オンラインで挑みました。作品のテーマは「自分の気持ちや考えを知ってもらう・他者の気持ちや考えを知る」。

子どもたち、学生、青年部が4チームに分かれて談笑しながら、自分たちの気持ちを込めて作ったパズルを1・2×1mの台紙に貼り付けていきました。アートワークの協働は「シンプルだからこそ深い」つながりを生んだ貴重な1日になりました。

地域福祉活動編

ヤマト繋がるプロジェクト



障がいのある子ども、学生も、社会人も みんなで奏でた笑顔のハーモニー



ヤマト運輸労働組合青年部も
企画から参加

11月中旬、障がいのある方やお子さんと楽しく交流する地域イベントが横浜市内の3カ所で催されました。

これは「ヤマト繋がるプロジェクト」と題するボランティア企画で、2年目となる今年もヤマト運輸労働組合青年部のみなさんが参加しました。

オンラインによる企画会議が6月28日に実施されたのを皮切りに、青年部のメンバーと大学生の方々がアイデアを出し合い、課題の一つひとつを解決していきながら、イベント当日を迎えました。

イベントはそれぞれ、サイエンス、スポーツ、アートをテーマにした内容で、青年部のみなさんはオンラインで参加。リアルな会場とネットという垣根を越えて、笑顔の絶えない心の通じ合うひとときとなりました。

ヤマト繋がるプロジェクトとは？

新型コロナウイルスは、人と人とが繋がる機会を大きく奪ってしまいました。

そこでオンラインも併用して、社会人と学生が協働してボランティアイベントをゼロから企画・運営。福祉施設とも繋がる場を設け、笑顔や気づきを生もうという試みです。

同プロジェクトは、NPO法人アクションポート横浜(以下、APY)とのコラボレーションによるものです。地域の課題解決のために若い人たちを招き入れる取り組みを、APYはさまざまな団体と連携して取り組んでいます。

学生たちの声

- 企画当日は、想定外のことばかりでしたが自分たちでカバーしながら企画の成功に辿り着けたことが嬉しかったです。
- 会場では子どもたちや学生の、オンライン上ではヤマト社員の皆さんの、あたたかな笑顔が溢れる素敵な一日でした。

ヤマト運輸労組青年部の声

- 子供たちの楽しそうな笑顔を見ることができ、今回企画から携われて本当に良かったです。貴重な経験ができました。
- オンライン参加でしたが、子供たちの楽しそうな姿に、私も楽しくなりました。次回こそ対面参加したいです！



障がい児者サークルラビッツより

ポッチャ、オンラインを通して、ラビッツと学生さん、ヤマトさんが対等に仲間として楽しみながら関わり、笑顔が溢れていたことが素晴らしかったです。相手のことをたくさん想って企画してくださったからこそですね。



学生たちの声

- 対面とオンライン参加者が、遠くからでも同じ空間にいるような一体感と笑顔を生み出すことができて本当に良かったです。
- 学生とヤマト社員さんと連携先のラビッツさん、それぞれが理想とするものを1つにまとめていく作業ができる貴重な体験でした！

ヤマト運輸労組青年部の声

- ゼロからの企画づくりとオンラインでの意思疎通の難しさに苦慮しましたが、子どもたちと仲間たちの良い反応に、歓びが溢れました。
- 子供たちの笑顔をたくさん見ることができ、あたたかい気持ちになる企画で、ボランティアへの関心を強く持つ機会となりました。次回こそ対面参加したいです！

学生たちの声

- コロナ禍で忘れていた「人と繋がることの素晴らしさ」に改めて気づくことができたプロジェクトでした。
- 企画が終わってもずっと繋がっていたいと思える最高の仲間ができました。大変でしたが、それを越える財産ができました。

ヤマト運輸労組青年部の声

- コロナで数々のイベントが中止になってきた中、当日の3時間はとても濃厚で、自分の中でとても大きな財産となりました。
- 画面越しでもたくさんの仲間たちが心躍らせ、楽しく活動しているのがひしひしと伝わって、私もあたたかい気持ちになりました。



利用者さんの給料増額に向かって 夢へのかけ橋実践塾

残りの研修期間を1日でも有効に活かし、少しでも成果と自信を得たい。各塾生たちの真剣なまなざしに塾長の言葉にも熱がこもってきます。

夢へのかけ橋 プロジェクト



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

第3期楠元塾

全体研修
(10月19日・20日)

お客様の声から、
求められるサービスの本質を探る

岐阜県で行った全体研修では、課題となっている「利用者さんが仕事をしやすい環境づくり」について塾生たちが取り組みを報告。「随分と盛りつけがきれいになった」「盛りつけ台や使用する道具の配置も変わり、作業の流れがスムーズになっている」などの成果を確かめながら、今後の新たな課題を深掘りし、自分たちの施設にどう反映していくかを話し合いました。

楠元塾長は「利用者さんが働きやすいように、お弁当作りの流れが見える化するフローを考えていきましょう。さらに、給料増額を目指すには、福祉施設が得意とする高齢者食を広げるべきです。それには、サービスとはなにかをお客様の声から学ぶこと。そして原価率など明確な目標数字を決めておくことが大事です」と全塾生に伝えました。



塾長視察
(10月31日・11月1日)

プロとしてのプライドをかけて
弁当を作る

JointJoy

京都府の塾生施設「(NPO)JointJoy」の目標は1日300個、年度内には200個の弁当の販売を目指しています。しかし、それだけの弁当を作る環境がまだ整っておらず、特に厨房が狭いことがネックになり、たくさんの弁当を並べて盛りつけるやり方は効率が良くありません。楠元塾長は「広げる弁当箱の数を少なくすれば、盛り付ける人も重ならず動きやすい。しかも早く蓋を閉めて配達にも行けます」とアドバイス。「服装や布巾などの衛生管理もしっかりチェックしてください。弁当屋としてお金をもらい提供しているのですから、プロとしてのプライドをかけて作ること。高齢者にはこれが最後の食事になるかもしれない、そんな気概で作ってほしい」と話しました。



農福連携実践塾

ぶどう剪定研修会
(12月2日・3日)

ぶどう栽培の実践を
先駆者から学ぶ

農業を生業としている施設はたくさんありますが、どこまで事業として成り立っているのでしょうか。農業を事業として成り立たせるためには、技術や具体的なノウハウを学ぶことが必要です。

農福連携実践塾の次年度は、農作物の品目を決め、成功を収めている専門家や農家から実地で指導を受けることを検討しています。そのプレ研修会を、長野県の山田農場・ぶどう工房で行いました。ぶどうの有機農業研究家・山田 優さんの技術をこの目で見たいと、多くの福祉施設が参加。「ぶどうを完全な無農薬で栽培することは難しい」と話す山田さんから剪定方法を指導いただき、実際に参加者が剪定作業を行いました。さらに品種や土地にあった独自の工夫についても指導いただきました。



見学勉強会
(10月13日)

利用者さんが主役として
働ける仕事を事業の柱に

太陽の郷

兵庫県姫路市の塾生施設(社福)五倫会の事業所「太陽の郷」には、DM作業以外にも除草作業、空き缶リサイクル、ポスター貼り、お弁当作り、さらに施設外就労とたくさんの仕事があります。月額平均給料は約3万6,000円に伸びていますが、利用者さんのなかには、作業に集中できていない方の姿も。アドバイザーの菅野先生は「あれもこれもではなく、利用者さんが担当する仕事を一本化することが必要では?」と疑問を投げかけます。

「利用者さんは、一つの作業を専門に担当することで、これは自分の仕事だという意識が芽生え、その作業に特化して能力が伸びていきます。職員も一人ひとりに合った適切な支援ができるはず。さらに、その仕事で社会と関わっていく実感が湧けば、仕事の喜びにもなり、利用者さんの仕事ぶりが変わっていきます」とアドバイスしました。



見学勉強会
(10月14日)

利用者さんを育てる
コミュニケーションの工夫を

ワークセンター Halle!!

京都市にある(社福)修光学園のB型事業所「ワークセンター Halle!!」の事業は、蜜玉マドレーヌなどの製菓、紙器加工、地元印刷会社と提携したDMの封入封かんです。2021年度の平均月額給料は3万5,000円でしたが、コロナ禍でお菓子の箱など観光客向けの紙器加工が減少。安定して需要があるDMに力を入れようと治具なども用意しましたが、利用者さんはいま一つ仕事に集中できず、給料増額には生産性を上げることが課題となっています。

アドバイザーの菅野先生は「でき上がった物を持ってきた利用者さんに『凄く上手くできましたね、次はこれをやってみて、と受け渡し時に声をかけてほしい』と指摘。実践してみると、途端に利用者さんの動きが良くなり、仕事がスムーズに流れはじめました。「工程改善と同時に信頼関係も築いていく。そのためのコミュニケーションをより工夫してください」と指導しました。



見学勉強会
(12月1日・2日)

「働く」が楽しくなる、
仕事の提供の仕方を考える

八木園

広島市の塾生施設(社福)やぎの事業所「八木園」は、カフェの運営や企業から委託された作業着の補修などを行っています。「働くことは大切ですが、利用者さんが楽しく過ごす時間とのバランスが難しい」と塾生。それを聞いた他の塾生は「うちの利用者さんはもっと仕事がしたいと言っている」と話します。

アドバイザーの菅野先生は「働くことで利用者さんの力は伸びていきます。成長し高い給料をもらえるとわかれば、仕事をもっと楽しくなる。働く喜びや利用者さんの生きがいを作っていくのが、職員の仕事ではないでしょうか」と伝えました。

翌日は9月22日開催のパワーアップフォーラムでゲスト講演した、多機能事業所あさひを見学。生き生きとチョコレートづくりに励む利用者さんの姿を見た塾生たちは、目指すべき支援の姿を改めて確認することができました。



自然栽培パーティ 感謝祭2022

全国フォーラム
in 沖縄



待望のリアル開催！ 農福連携の仲間が美ら島に集う

2022年11月23日、沖縄県南城市で自然栽培パーティの「感謝祭2022」が開かれました。参加者は約200名。対面での開催はじつに3年ぶりです。当日は自然栽培パーティの歩みを追ったドキュメンタリーも上映されました。



パネルディスカッションでは、沖縄の風土を踏まえた自然栽培と農福連携の可能性を探りました。



自然栽培パーティメンバー以外のイベント協力を募り、地元の有名店のオーガニック商品やローカルグルメが勢揃いしました。約1,500人の参加者で大盛況!! 自然栽培パーティの沖縄メンバーとの連携も始まりました。



沖縄での先行ケースに基づいた事例発表。



ドキュメンタリー上映後には、監督のほか映画に出演することになった利用者さんも登場。

理解と交流が深まった充実の1日

全国の休耕地などを活用して、障がいのある人たちが自然栽培に取り組む活動の普及に努めている「自然栽培パーティ」。

コロナ禍で2年ほどオンライン開催が続いていましたが、仲間の輪を広げようと今年は沖縄での感謝祭を計画、リアルでの開催がようやく叶いました。

午前の第1部は、農福連携と自然栽培の強みや魅力について、トークセッションやこれまでの事例発表が行われ、「沖縄で自然栽培農福連携

は可能か？」というテーマでパネルディスカッションも繰り広げられました。

午後の第2部では、ドキュメンタリー映画「種まいて水やって 自然栽培パーティ!」を特別上映した後、監督の一人、田中貴大さんも交えてパネルトークを展開。

最後に、農福師（農業で楽しく働く利用者さん）の貢献ががんばりを讃える授賞式を執り行い、15名の方を表彰して盛況のうちに閉会しました。

ドキュメンタリー映画 「種まいて水やって 自然栽培パーティ!」のご紹介



農業や肥料を使わない「自然栽培」に取り組む福祉施設の集まりが、地域と福祉に旋風を起こして生まれた変化(小さくて大きな革命)を追いました。
11月23日には全国10カ所で一斉上映され、今後も各地で自主上映される予定です。

監督：田中貴大×岩崎靖子 制作：トキノツカサ企画
配給：トキノツカサ企画 NPO法人ハートオブミラクル
<https://shizensaibai-party-movie.com/>

YWF TOPICS

全Aネット 就労支援セミナー in大阪 求められるA型は？ 社会に貢献できるA型は？ 働きがいのあるA型は？

2022年10月15日

全Aネットの就労支援セミナー in大阪が、現地参加とオンラインのハイブリッドで約260名の参加者を集め開催。「A型事業所は6割が赤字という状況のなか、一つでもよきA型事業所が増えるように加速していきたい」と全Aネットの久保寺理事長の挨拶でスタート。最初に、財団の山内理事長が「ヤマトグループの障がい者自立支援について」というテーマで記念講演を行いました。

次にセミナーの初めての試みで関西地区の支部長、副支部長6名が「そこまで言って委員会」by関西支部長's」と題して、よきA型を探るシンポジウムを実施。「就労支援売上に重点を置くのはどう思う？ 赤字は悪しきA型か」など、それぞれのテーマに、現場に入る経営者ならではの苦労や日頃感じる疑問をぶつけ合い、時に厳しく、笑いも交えて議論を展開しました。シンポジウムの最後に「一般企業では難しい方を雇用して頑張っているA型事業所は、「よきA型」と評価してほしい」と議長のことばで締めくくりました。

最後に、2022年度の優良認定A型事業所の追加認定を発表。A型優良認定事業の審査員による鼎談が行われ、認定事業の審査に関わった感想、福祉の支援と収益をあげる経営の両立の難しさなど、それぞれの立場からA型のあり方について意見を出されました。



「そこまで言って委員会」by 関西支部長's



A型認定事業審査員による鼎談

JDF全国フォーラム 障がい者権利条約の目指す社会へ 2022年12月6日

障がい者週間の12月6日、JDF全国フォーラムがオンラインで開催されました。日本が2014年に批准した障害者権利条約に対して、2022年8月、日本政府がどのような取り組みをしてきたかを国連障害者権利委員会が審査を行い勧告を出しました。それが総括所見としてまとめられています。

フォーラムの第一部は、「総括所見の実施に向けての展望」と題し、石川准障害者政策委員会委員長が、国連障害者権利委員会にレポートを提出するまでの経過、総括所見で指摘を受けた内容について特別報告を。JDFを構成する各団体からもそれぞれメッセージを発表しました。

第二部では、総括所見の実施に向けて、手話言語、精神病院からの地域移行、旧優生保護法など8分野の取り組みと課題を報告。JDFは総括所見を国内法に反映させていくための行動計画を作成して、継続的に政府に働きかけを行っていきます。

最後に、総括所見を受けて作成したJDFの声明文を発表して、閉会しました。

ゆいジョブ！ お仕事発見フェア連絡会 ニーズがあることを実感

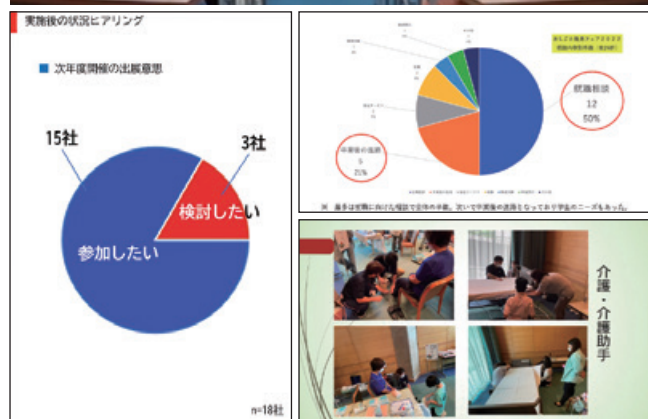
2022年11月21日

沖縄県中小企業同友会会議室より、オンライン同時開催



司会を務めた赤嶺徳郎さん（さわやか）

比嘉あみ子ゆいジョブ！実行委員会委員長



各コーナーのアンケート結果を報告

昨年7月28日に沖縄コンベンションセンターで開催された「お仕事発見フェア2022」の報告と次年度に向けた連絡会を、出展企業をはじめ関係者に参加いただいて開催しました。

7月のお仕事発見フェアを振り返り、ゆいジョブ！実行委員長の比嘉あみ子さんは、全体の報告として「参加者が約350名。いくつものコーナーがワンストップでできたこと。イベント会場で対応しきれないほどの人出となり企業説明会も大盛況で、こんなにもニーズがあることを実感することになった。障がいのある方の将来設計と一緒に考える重要性を改めて認識。このイベントを開催したことによって大きな使命感和勇気をいただいたことには間違いない」と話しました。

また、企業合同説明会、相談コーナー、体験コーナー、参加者アンケートをそれぞれ担当者が報告。企業合同説明会では3社4名が採用に至ったと報告がありました。

次回開催に向けて、沖縄コンベンションセンターのアリーナで開催することを検討、また、説明会参加企業によるお仕事体験などの要望など実行委員からの意見があり、検討していくこととなりました。

お仕事発見フェア連絡会

参加者：沖縄県商工労働部雇用政策課、沖縄県教育委員会、沖縄県中小企業家同友会、特別支援学校、那覇市保護課、障害者就業・生活支援センター、説明会出展企業、体験会協力企業、ゆいジョブ！実行委員、ヤマト福祉財団事務局

浪華の名画大集結。史上初の大規模展！ 開館1周年記念特別展 大阪の日本画



北野恒富「宝恵籠」
昭和6年(1931)頃 大阪府立中之島図書館



島成富「祭りのよそおい」
大正2年(1913) 大阪中之島美術館



生田花朝「天神祭」
昭和10年(1935)頃 大阪府立中之島図書館



矢野橋村「那智奉拜」
昭和18年(1943) 大阪市立美術館

今につながる大阪の芸術文化

幕末、明治から昭和に至るまで、近代大阪のすぐれた日本画を集めた展覧会が、昨年2月にオープンした大阪の新しいランドマーク、話題の大阪中之島美術館で開催されます。

商工業都市として長らく発展してきた大阪。東京や京都とも異なった文化が育ち、個性的ですぐれた芸術文化が花開きました。近代大阪の芸術の特徴は、江戸時代からの流れを汲んだ町人文化を背景に、伝統にとらわれない多彩で自由な表現です。瀟洒でスッキリした作品から、滑稽で可愛いユーモアたっぷりの作品まで。幅広い才能を持つ画家たちが活躍し、画壇を大いに盛り上げました。

躍動する個性が一挙に！

人物画の名手にして、大阪画壇の中心的存在として多くの後進を育てた北野恒富。当時「悪魔派」と揶揄された人物表現は、妖艶かつ頹廢的な雰囲気さえ放ちます。独学で絵を学び、若くして文展に入賞、大阪における女性画家の先駆者となった島成富。「浪速風俗画」を確立した菅橋彦。その弟子の生田花朝は大阪庶民の生活を温かく、時にユーモラスに表現した作品で大いに愛されました。日本南画院や大阪美術学校の設立にも関わった矢野橋村は、中国の南宗画を起源とする南画に近代的な感覚を取り入れ、「新南画」という革新を巻き起こしました。

近代大阪の日本画家50人以上、約150点の作品が一堂に会す本企画は、大阪の日本画を紹介する初にして決定版！ぜひお見逃しなく。ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

DATA

開催期間 ▶ 2023年1月21日(土)～4月2日(日)

休館日 ▶ 月曜(ただし3/20は開館)

開催場所 ▶ 大阪中之島美術館

アクセス ▶ 京阪 中之島線 渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分

JR大阪環状線 福島駅/東西線 新福島駅(2番出口)より徒歩約10分

Osaka Metro 四つ橋線 肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

阪神 福島駅より徒歩約10分

開館時間 ▶ 10:00～17:00 ※入館は閉館30分前まで

観覧料	一般	高大生
(税込)	1,700円	1,000円

※障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は、当日料金の半額(要証明)

※中学生以下は無料

※一般以外の料金をご利用される方は証明できるものを当日ご提示ください

主催 ▶ 大阪中之島美術館、毎日新聞社、NHK大阪放送局

協賛 ▶ 孔官堂、大和ハウス工業、フォーラムkaya新生社

助成 ▶ 令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

問い合わせ先 ▶ 06-4301-7285 (大阪市総合コールセンター・年中無休8時～21時)

展覧会公式サイト ▶ <https://nakka-art.jp/exhibition-post/osaka-nihonga-2022>

巡回情報 ▶ 東京ステーションギャラリー 2023年4月15日(土)～6月11日(日)

スワンのケーキ販売にご協力いただき、ありがとうございました

昨年クリスマスには、スワンのケーキをお楽しみいただけましたでしょうか。

おかげさまで昨年12月に販売したクリスマスケーキは100,763個となりました。

ヤマトグループのみなさま、ご協力に感謝申し上げます。

これからもみなさまに喜んでいただけるよう、スタッフ一同邁進して参ります。

お近くのスワンをどうぞよろしく願いいたします。

株式会社スワン

